

所信

はじめに

東日本大震災から早いもので 5 年が経とうとしています。2011 年 3 月 11 日に起こったあの地震は多くの方の命を奪い、人間の無力さを実感するできごとでした。しかし、復興の過程で日本人の素晴らしさ、そして絆を学ぶこともできました。あれから 5 年、ゆっくりですが東北地方は着実に歩みを進めています。日本経済も、バブル崩壊から経済低迷期を乗り越えアベノミクスによる経済政策により、ゆっくりと着実に復活し、成長していると感じます。戦後から 70 年が過ぎ、日本の復興、そして発展に尽力された世代からのバトンを、我々が受け継ぐ時を迎えています。我々は受け継ぐバトンをさらに素晴らしいものへと発展させ、後世に受け継いでいく使命があります。しかし日本の現状は、高齢化社会の到来と少子化による人口減少、そして地方都市では、地域の将来を担う若者たちが、生まれ育った故郷から進学や就職のために都市部へと転出し、帰郷することなく、そのまま都市部で生計を立ててしまい、人が地方から都市部へと集中してしまっている現状があります。そして今後、日本経済は人口減少を起因として、生産人口の減少、国内消費の低迷、そして経済の低迷へと連鎖していき、日本の国力は減少していくことが予想されます。それ以外にも、経済情勢や世界情勢で様々な問題を抱えながら今を生きている我々は、将来への希望や夢を描くことができなくなり、日々の生活に追われ、自分のことだけを考えることに精一杯になり、様々な問題に対し、誰かが対処してくれることを期待して、問題を直視することを避けているのではないのでしょうか。しかし、問題を解決するためには自分たちが動き、問題に向き合っていくことしか無いのです。ただ、一人で出来ることは限られており、人と人とが協力し、助け合って取り組んでいく必要があります。明るい豊かな社会を目指し活動している我々青年会議所が、若き力で率先して動き、さまざまな問題解決への一歩を踏み出していくことが必要だと考えます。小さな一歩が、波紋のように広がり、大きな動きへと変化していくのだと思います。こんな時代だからこそ、我々 J C の活動が求められているのだと考えます。我々が暮らす地域が、若者たちへ夢や希望を描かせることができ、老若男女分け隔てなく互いを尊重しながら協力し、助け合って暮らすことができる地域、そして自分たちが暮らす地域の魅力や地域の資産を再認識し、故郷に誇りと愛着を持って暮らすことができる、明るい豊かな社会を目指し、一步一步 J C 運動に邁進し、我々が暮らす地域の輝く未来へ向け、行動を起こしていきましょう。

限りある期限の中で・・・

仕事に家庭、そして地区の活動や他団体の活動など、メンバーは限られた時間の中で、

J C活動をしています。時間はすべての人に平等に与えられています。限りある時間をどのように使っていくのか、自分の時間は自分で管理するしかありません。そして実りあるJ C活動をする為には、空いた時間に活動するのではなく、活動に費やす時間を作っていかなければならないのだと思います。J Cでの活動は40歳までと時間が決まっており、限られた時間を有効に使い有意義な活動をしていくことが大切だと思います。J Cに入会しているだけではなにも得られることはなく、J C活動の中で自分自身が考え、動き、成功や失敗の経験を通し、奉仕・修練・友情の三信条を体感することで個の成長に繋がっていくものだと考えます。個の成長こそが、会社や家庭への最大の恩返しであり、この地域の発展に繋がっていくものだと信じています。J C活動を通して仲間と語り、精一杯活動することで、我々はお金では決して得ることが出来ないかけがえのないものを得ることができるのではないのでしょうか。与えられた職責を果たし、立場を有効に使って個々が成長する場になることを願っています。

本年認承 55 周年を迎える上田青年会議所

昨年、北陸新幹線が金沢まで延伸され多方面からの観光客の誘致が可能となりました。そして本年は、NHK 大河ドラマで信州上田の英雄「日本一の^{つわもの}兵」と呼ばれた、真田幸村公を主人公とした「真田丸」が放映されます。我々が活動する圏域は、知名度が向上し、更に多くの観光客が訪れることが予想され、それらがもたらす経済波及効果が非常に期待されています。活動圏域内にとり非常に恵まれた年に、上田青年会議所が認承55周年を迎えます。明るく豊かな社会の実現を目指し、1959年設立された上田青年会議所は、設立時の先輩方の熱き想いと高い志を脈々と受け継ぎながら、様々な視点から考え実践し、青年会議所ならではの活動を展開してまいりました。それらの活動はこの地域に様々なカタチとして、57年という長きにわたるJ C運動の功績として残されております。先輩方が築き上げてきた歴史と功績を我々メンバーはしっかりと捉え、これからのJ C運動に繋げ、その運動の火を後世に引き継ぐ使命があります。メンバーひとりひとりが、上田青年会議所設立時の高い志を持ち、認承55周年の事業をメンバー全員で上田青年会議所らしく凛として執り行い、認承55周年から60周年、そして未来へと繋がるように志の継承をおこなっていきたいと考えます。

輝く未来創造委員会

認承50周年に我々は、「上田J C未来ビジョン」を掲げ、この5年間、活動を展開してまいりました。そして昨年、「上田J C未来ビジョン」について、この5年間、我々が未来ビジョン達成に向けて取り組んだ活動について検証を行いました。本年はそれを受け、55周年から60周年に向けた今後5年間の活動をどのようにおこなっていくべきなのかを

模索し、この地域の更なる発展に向け、「上田 J C 未来ビジョン」を時代に合わせた変化を加え、さらに発展させ、認承 60 周年に向けたこれからの 5 年間、未来ビジョン達成に向けてメンバーが一丸となって活動を行えるよう取り組んでまいります。50 周年からの 5 年間で活動圏域では、アベノミクス効果による経済の回復や北陸新幹線の金沢延伸、そして NHK 大河ドラマ「真田丸」の放映などによる知名度上昇や経済効果により、この地域を取り巻く環境は好転しています。しかしその反面、少子高齢化や人口減少、そしてそれらに起因する労働力不足などこの地域が抱える課題も多くあると考えます。我々は明るい豊かな社会の創造へ向け、今ある地域の課題やニーズを踏まえながら、若者らしく柔軟に対応し、今後の 5 年間への活動へ弾みをつけて参ります。

また本年は、NHK 大河ドラマ「真田丸」の放映により、活動圏域は全国から注目を集めており、多くの人たちが全国から訪れることが期待されます。その中で、我々は改めてこの地域の資産や魅力に触れ、それらを再認識することが出来るチャンスがあると思います。この地域が更に発展し輝く地域となっていくために、そこに暮らす住民が地域の魅力や資産を再認識し、それに誇りや愛着を持ち、自信を持って発信することが大切だと考えます。その地域の資産と地域の魅力に磨きをかけていくことで、この地域に人を引き付けるひとつの材料となっていくものだと思います。認承 55 周年からの一歩として、地域の未来に希望を与えることができる運動を展開し、地域に対する誇りと愛着をさらに高めていけるよう活動してまいります。

組織力向上委員会

各地会員会議所の共通の課題として会員の減少があります。著しく会員数が減少することは LOM の存続を脅かし、地域に対し有効な活動を行うことが出来なくなるとともに、メンバーにとっても新たな仲間との出会いや交流、その中で生まれる新しい発想や気づきの場が減り、J C 活動が有意義なものとならなくなるのではないのでしょうか。この地域の為に、多くの仲間と考え、議論し、活動を行うことで、かけがえのない経験と時間を過ごすことができ、メンバー同志互いを高め合いながら永久の友^{とわ}となっていくのだと思います。そして永続的な組織を目指すには、計画的な会員増強が必要不可欠ではないのでしょうか。明るい豊かな社会の創造に終わりはなく、青年会議所の活動にもゴールはないのだと思います。上田青年会議所が今後も地域に必要とされる活動を行っていくためには、将来を見据えた会員増強が求められています。まだ、青年会議所を知らないこの地域に暮らす多くの青年経済人に、我々を知ってもらおう努力を LOM 一丸となって推進していくとともに、彼らが入会したい、一緒に活動してみたいと感じてもらおう LOM となるべく、我々メンバーも個々の能力の向上を目指し、個の成長、そして組織力の向上に向け有益な事業を行い、各々のメンバーが更なる自己研鑽を行いながら人間力の向上を図ってまいります。そして、様々な修練から個々の能力が向上したメンバーが一丸となって J C 活動を行うことで、活

動の質が更に向上し、LOMの組織力が強化され、LOMの魅力が増すことで、外部への発信力が向上し、地域のより多くの方々にJC活動を知ってもらうことができるとともに、活動に賛同して頂くことができるのだと考えます。この地域の輝く未来に向け、より多くの仲間と共にJC運動が行えるように、会員拡大運動をメンバー全員で取り組んでまいります。

地域の活力推進委員会

時代の流れや経済・社会情勢などにより我々のライフスタイルや考え方が変化しているのと同じく、子どもたちの育つ環境も常に変化しており、我々の育った環境とは違った環境で今の子どもたちは育っています。ただ、我々はそれらの違いや変化を否定するのではなく、それらを上手く活用しながら柔軟に子どもたちを育てていくことが大切だと考えます。そしてなにより時代が変化しようとも子どもたちには、将来への夢を持ち、夢に向かって努力と挑戦をしてほしいと願っています。どんなに物質的に豊かになっても、子どもたちが将来への夢を持つことができなくては、「明るい豊かな社会」の実現は不可能です。そして親だけでなく、地域の人たちが共に子育てに関わりを持ち、互いに関心を持つことで、子と親そして地域の人たちが互いに協力し助け合うという地域の和を取り戻すことができ、親だけでは教えることができなかったことが、地域全体で伝えられることにより子どもはさらに成長し、また、その中で親や地域の人たちも共に学び、成長することができるのだと考えます。連帯感のあるその動きが、地域の活力に繋がり、魅力ある地域への一歩に繋がるものと考えます。この地域の未来を担う子どもたちが、この地域に愛着と誇りを持ち、将来への夢を描くことが出来る、そして子・親が共に成長し地域が発展していくことができる「子育て」を推進してまいります。

また、市民が互いに打ちとけ楽しむことができる「市民総和楽」を目的として、上田青年会議所の先輩方が立ち上げ、その時々様々な想いが乗せられ現在まで脈々と受け継がれ行われている上田わっしょいも、今年で45回目の開催を迎えます。上田を代表する祭りとなり、多くの住民が参加する上田わっしょいに対し、設立時の変わらぬ想いを継承しつつ、今以上に市民に愛される祭りへと発展するように、青年会議所としての携わり方を模索していきながら、新たな可能性へと挑戦してまいります。

おわりに

JC三信条「奉仕・修練・友情」を、JC活動を通じメンバーそれぞれが体感しているはずですが、JCでしか味わえないこと、JCだからこそ出来たことは数知れないはずですが。メンバーは、家庭や仕事があり忙しい毎日の中、限られた時間をJC活動に振り分けています。単年度制の青年会議所では、メンバーは毎年役職や立場がかわります。様々な立場

がメンバーに試練を与え、それぞれの立場で悩み考え行動し、そこにメンバーや関係者からの助けや協力を頂いて、活動をしてきているのだと思います。それぞれがどのような立場であっても、J Cとしてやるべきこと、目的は変わりありません。その立場で出来ることを精一杯行い、メンバーとしての権利を積極的に使っていくべきです。委員会活動や渉外活動、例会など、参加して学べることは非常に多くあると思います。行動する前から、無駄なこと、意味がないことと決めつけるのではなく、まずは行動を起こしてみることが重要だと思います。そして、自発的な活動が自己の成長へと繋がるものだと考えます。会社や家庭では経験することが出来ないことを経験出来るのがJ C活動の醍醐味であり、そこで経験し学んだことを、会社や家庭に持ち帰り活かすことがメンバーの責務です。自己を成長させるには、自分が考える以上に無理をして背伸びをすることが必要であり、自発的に、そして精一杯取り組んだ活動にかけた時間は、かけがえのない経験値として、将来自分の経済活動や家庭で生きるものだと信じています。J Cでの活動には、決して無駄なことなど一つもなく、すべての活動が地域の為、仲間の為、自分の為になっているのだと思います。40歳までの限られた時間の中、一年一年を大切にしていき、すべてを楽しみながら活動していきましょう。そして青年ならではの英知と勇気と情熱、そして強い信念を持ち、失敗を恐れることなく、我々の地域がさらに明るい豊かな地域となるべく行動していきましょう。

【基本事業】

- ・メンバー全員による会員拡大運動の実施
- ・認承55周年に関する事業の実施
- ・公益目的支出計画に基づいた事業の実施
- ・上田J C未来ビジョン達成に向けた取り組み
- ・地域活力の推進
- ・組織力の向上・人間力開発
- ・青少年育成事業の推進